

応募者名	大分県立情報科学高等学校（株式会社オートバックスセブン協同推進）	分野	教育、子育て
取組名称	高校生に「DX活用マインド」を浸透させるための取り組み	取組地域	大分県大分市

概要	
取組内容	デジタル技術とは「何かを変革する際の手段」であり、変革を起こすためには「課題解決力」と「創造力」を養う必要があるという背景から、大分県と包括連携協定を締結し、県内教育のデジタル化を推進している株式会社オートバックスセブンと連携。同社のラボを校内に常設（社員常駐）し、「デザイン思考」を取り入れた学習を通年で展開。全生徒の「課題解決力」と「創造力」の「発見、習得、応用」を図り、生成AIやプログラミング機材などの積極活用、小中学校への「デジタル技術に関連した生徒主体の出前授業」を実現。これらの学習を通じて「生徒のDX活用マインド」を醸成し、デジタル社会の「変革者」として行動できる人材を全校規模で育成。
実績や効果	本校学習環境への社会的な理解が深まり、志願者数は増加し、令和4年度の募集倍率は約2倍となった。そのため、本年度からは学級数を1クラス追加し、入学定員数を160名から200名へ増員している。また、一部企業からは本校生徒の思考能力について高い評価を受けており、特別な求人情報が提示されるまでに至っている。
取組全体を通じて訴えたいポイント	本校では、先細りが懸念される日本の若年層人口やAIなどの台頭による就業環境の変化も視野に入れ、生徒が日本経済の変革者となりうるように「デジタル技術“だけ”を使える人材の育成」ではなく、「社会を人間活動中心に捉え、必要に応じてデジタル技術を活用しながら社会課題を解決できる変革者の育成」を実践している。

詳細	
地域の課題解決・魅力向上	学習の一環で生徒たちは「仮想企業」を立ち上げ、生徒主体で地元企業と連携し、デジタル技術（IoT機材等）を活用しながら企業課題、社会課題の解決に取り組んでいる。なお、これら一連の学習環境における活動を通じて、生徒自身による地元の魅力発見や、地元での就職希望数の増加を促し、地域人口の流出防止を図っている。
独自性・先進性	・「デザイン思考」を全校の共通言語と設定したうえでの、産学官連携に基づく「課題解決型授業」の通年展開および「DX活用マインド」の醸成環境構築　・上記学習環境の構築達成による、授業の持続性担保　・教員自走による、生成AI、プログラミングドローンやAIロボットを活用したデジタル、ICT教育の通年展開
持続性・発展性	「デザイン思考」を共通言語とした学習環境およびデジタル活用環境を構築済み。なお、現2年生に学習効果を問うた結果、160名中157名（割合：98%）が「本校の探究学習は役に立つと感じる」と回答（4段階評価中3以上）。また、学習内容に共感する機関や企業との積極的な意見交換を通じ、常に発展性を模索している。
他地域への横展開	全国の高校、公共団体、中学校のPTAや企業から「デザイン思考」を共通言語とした学習に関する問い合わせや視察が相次いでおり、昨年度の視察件数は14件となった。また、昨年度に実施した公開授業では、県内外から100名/回の視察者数を記録し、大手企業からの視察も見受けられた。
取組を進めるうえで苦労した点	「デザイン思考」を共通言語として設定し、生徒が様々な場面で「デジタル活用の可能性」を検討できる環境を整えるという、一連の流れ。その中でも「生徒の状況把握」「緊密な産学官連携の実現」「教員へのビジョン共有」「通常授業とは異なる進行方法の確立」「授業の引継ぎ方法（異動対策）」がボトルネックであった。
取組の成果を上げることが出来た秘訣・工夫	「生徒が主人公」という共通認識に基づき、生徒が様々な活動シーン（授業、研究など）で自主的に学習活動へ没入できるよう、「デザイン思考」を共通言語として、教員が株式会社オートバックスセブンと協同でアイデアを創造しながら、生徒目線での授業を設計・構築し、生徒の知的好奇心を引き出す授業を実践している。
今後の展望	生徒が創造したアイデアや活動成果を「机上の空論」とせず、価値ある成果物として社会的な評価を得ることが叶うよう「PDCAサイクル」を回し、行政、企業と連携しながら、検証まで実現できる環境を実装する。今後も「生徒が主人公」という思考のもと「産学官連携」を強化しながら、「生徒のための授業」を実践する。